

自分の命は自分で守る



令和元年7月 大雨による山腹崩壊
(輝北町上百引地区)

毎年、台風や大雨による自然災害が全国各地で発生し、甚大な被害により尊い命や住家などが失われています。災害はいつ、どこで発生するか予測できません。これから梅雨や台風シーズンを迎えるにあたり、災害を未然に防ぐため日頃の備えについて考えてみましょう。

市安全安心課 Tel 0994-31-1124



平成30年9月 台風第24号による大雨で冠水
(吾平町麓交差点付近)



令和元年7月 大雨による浸水被害
(串良町永和地区)



令和元年7月 大雨により増水した肝属川
(打馬1丁目付近)

近年の市内の主な被害状況

○平成30年9月台風第24号

- ・重傷者 1人
- ・住家被害 全壊1棟 一部破損2棟
床下浸水9棟 床上浸水31棟
- ・非住家 全壊2棟

○令和元年7月豪雨

- ・住家被害 床上浸水13棟 床下浸水79棟
- ・非住家 全壊5棟

大雨による被害

昨年の7月豪雨による影響で、県内各地で人的被害や住家被害など多くの被害が発生しました。鹿児島市と曾於市では、住宅への土砂流入や、がけ崩れにより2人が亡くなったほか、道路の陥没による車両転落によりケガ人も出ました。

市内では輝北地区や串良地区において土砂崩れによる農地や牛舎等への被害のほか、家屋への床下浸水や停電、断水などの被害が発生。また、道路や農地などにも甚大な被害が発生しました。市内には、山間地を中心に土砂災害に警戒が必要な地域や、低い土地への洪水や浸水のおそれがある地域がありますので十分な警戒が必要です。

年々増える降水量

降水量の増加は、火山活動などの変化に伴う自然の要因と二酸化炭素の排出などによる人為的な要因の変化によるものとされています。

左のグラフは気象庁の観測データに基づき、市内の観測所の5年ごとの平均降水量を表したものです。1980年からおおむね右肩上がりに降水量が増加し、40年前と比較して約1.4倍に増加していることがわかります。

